

「県立川崎図書館に関するアンケート」単純集計結果 分析

【分析の視点】

神奈川県立川崎図書館の利用者の状況や傾向を把握。

1 回答者について

1) 性別

- 「男性」148人（76.7%）、「女性」40人（20.7%）となり、2019年度と比較して男性の割合が約5ポイント増加して、女性の割合が約3ポイント減少しました。（第13表・第27図）

2) 年代

- 「60代」が47人（24.4%）と最も多く、「20代」・「30代」がそれぞれ13人（6.7%）で最も少なくなりました。（第14表・第28図）
- 2019年度と比較して「50代」の割合が約6ポイント、「60代」の割合が約11ポイント、「70代」の割合が約4ポイント増加しています。（第14表・第28図）
- 2019年度と比較して「19歳以下」の割合は約9ポイント減少しています。（第14表・第28図）
- 男女別にみるとそれぞれ最も大きい割合を示すのは、女性は19歳以下が30.0%ですが、男性は60代が28.4%となり、女性は若年層が多く、男性は高年層が多いと言えます。これは2019年度とほぼ同様の傾向です。（第14表・第29図）

3) 職業

- KSP内在勤を含めると「会社員・公務員」が75人（38.9%）と最も多く、次は「無職」39人（20.2%）となりました。「会社員・公務員」は2019年度も最も多い回答でした。（第15表・第30図）
- 男性の46.6%が「会社員・公務員」（KSP内在勤を含む）となり、女性の32.5%が「学生」です。これは2019年度と同様の傾向です。（第15表・第30図）

4) 住所

- 県内在住者が全体の87.6%です。県内の内訳では川崎市在住者が全体の65.8%となり、県立川崎図書館所在地の高津区在住者は全体の37.3%です。2019年度と比較して県内在住者は約2ポイント増加し、県外在住者は約1ポイント減少しました。（第16表・第32図）
- 男女の選択率の差が倍以上あった項目は、「横浜市」（男性16.2%、女性5.0%）です。（第16表・第33図）

2 利用頻度について

- 利用頻度は「月に数回」（37.8%）が最も多く、この傾向は2019年度と同様です。（第1表・第1図）

- 2019年度と比較して「月に数回」は約11ポイント減少し、「年に数回」は約11ポイント増加しました。(第1表・第1図)
- 男女の選択率の差が倍以上あった項目はありません。(第1表・第2図)

3 来館目的について

- 「個人的な利用(趣味・自習)」(63.7%)が最も多く、この傾向は2019年度と同様です。(第2表・第3図)
- 「調査・相談」(3.6%)は2019年度から約3ポイント増加しました。(第2表・第3図)
- 利用しているコンテンツでは「専門書」(29.5%)が最も多く、「専門誌・学会誌・新聞」(10.4%)、「社史」(4.1%)、「電子ジャーナル・データベース」(2.6%)と続いています。(第2表・第3図)
- 利用しているサービスでは「座席の利用(自習・休憩)」(18.7%)が最も多く、「調査・相談」(3.6%)、「展示・講座」(1.6%)と続いています。(第2表・第3図)
- 男女の選択率の差が倍以上あった項目は、「仕事上の利用」(男性29.7%、女性10.0%)、「専門書の利用」(男性34.5%、女性15.0%)です。(第2表・第4図)

4 県立川崎図書館の選択理由について

- 「専門的な資料があるから」(48.2%)が最も多く選択されました。県立川崎図書館の資料収集方針が反映されている結果と考えられます。男性の56.1%、女性の25.0%が選択しており男女の選択率に差が見られました。(第3表・第5図・第7図)
- 「家から近いから」(45.6%)は2番目に多く選択されました。男性の41.2%、女性の60.0%が選択しており男女の選択率に差が見られました。(第3表・第7図)
- 3番目に多く選択された項目は2019年度に新たに加えた「静かな環境だから」(36.8%)です。(第3表・第5図)

5 利用場所について

- 「個別閲覧席(キャレル席)」(34.7%)、「書架(専門図書)」(29.5%)、「書架(専門誌・学会誌)」(18.1%)が主に選択されています。この傾向は2019年度と同様です。(第4表・第8図)
- 回答者の選択が1割未満だった場所は「ソファ席」(7.3%)、「書架(社史)」(6.7%)、「書架(ものづくり入門)」(4.1%)、「書架(特許・規格)」(3.6%)、「電子ジャーナル・データベース席」(3.6%)、「カンファレンスルーム」(3.6%)、「知財スポット」(1.0%)、「ものづくりギャラリー(展示)」(0.5%)、「ディスカッションルーム」(0.5%)です。調査期間中に講演会は開催されていません。実施されていた企画展示は「分身ロボットOriHime ～距離や障害を乗り越えるテクノロジー～」です。また、「知財スポット」、「ディスカッションルーム」については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、調査期間中は開室していませんでした。(第4表・第8図)
- 書架で最も多く利用されていた資料の種類は「専門図書」(29.5%)で、2番目は「専門誌・学会誌」(18.1%)です。その他「特許・規格」「社史」「ものづくり入門」の選択率は3.6%から6.7%の間です。この傾向は2019年度と同様です。(第4表・第8図)

- 書架で利用されていた資料の種類について、男女の選択率の差が倍以上あった項目はありませんでした。(第4表・第9図)
- ## 6 利用時間について
- 「1時間未満」(38.9%)が最も多く、「1～2時間未満」(23.3%)、「2～3時間未満」(15.0%)と続きます。2019年度は「3～4時間」(32.9%)が最も多く選択されていたことと比較すると、短時間での利用の割合が高くなっており、新型コロナウイルス感染症が影響している可能性があります。(第5表・第10図)
 - 男女の選択率の差が倍以上あった項目はありません。(第5表・第12図)
- ## 7 利用の成果(アウトカム)について
- 選択率の上位4項目は、「知識・教養が深まった」(33.2%)、「研究や調べものが進んだ」(30.6%)、「余暇を有意義に過ごせた」(28.0%)、「仕事に役立った」(25.9%)です。このことは「ものづくり技術を支える機能」に特化した専門的図書館としての役割を果たしていると考えられます。(第6表)
 - 男性に最も多く選択された項目は「研究や調べものが進んだ」(34.5%)で、女性に最も多く選択された項目は「余暇を有意義に過ごせた」(37.5%)です。(第6表・第14図)
- ## 8 満足度について
- 「全般的に見た県立川崎図書館の満足度」について
 - 「満足」(58.4%)、「どちらかといえば満足」(35.7%)となっており、合計すると94.1%となります。中央値も4を示しており、利用された方は現状に満足している傾向にあります。(第7表)
 - 「資料やサービスについての満足度」について
 - 「満足」が最も多く選択された項目は「職員の対応」(64.6%)です。次は「施設・設備」(62.6%)です。(第10表・第16図)
 - 上記以外で「満足」と「どちらかといえば満足」の合計が7割を超えた項目は、「開館日・開館時間」(84.4%)、「図書」(72.9%)、「専門誌・学会誌・新聞」(70.9%)の3項目です。(第10表・第16図)
 - 「満足」と「どちらかといえば満足」の合計が5割未満の項目は、「電子ジャーナル・データベース」(44.4%)、「産業安全・労働衛生ビデオ・DVD」(32.3%)、「調査・相談」(39.3%)の3項目です。(第10表・第16図)
 - 「満足」と「どちらかといえば満足」の選択率が低い項目を見ると、必ずしも「不満」と「どちらかといえば不満」の選択率が高いわけではありません。それよりも「わからない」の選択率が高い傾向(50%から60%前後)にあります。満足度の低い項目は、認知度が低い、または利用経験がないため評価できないことを表していると考えられます。(第10表・第16図)
 - 「わからない」が5割を超えた項目は「産業安全・労働衛生ビデオ・DVD」(63.9%)、「調査・相談」(58.9%)、「電子ジャーナル・データベース」(52.5%)です。(第10表・

第16図)

- 「不満」が最も多く選択された項目は「図書」(5.0%)です。「どちらかといえば不満」(9.9%)との合計でも最も不満の高い項目でした。2019年度の「図書」は「不満」が2.5%、「どちらかといえば不満」が9.9%で、「不満」「どちらかといえば不満」の合計での傾向は2020年も変わりませんでした。次は「開館日・開館時間」です。(第10表・第16図)
- 女性の回答で「不満」が選択されたのは「図書」(2.5%)のみでした。男性の回答で「不満」が選択されたのは「施設・設備」(1.4%)、「開館日・開館時間」(5.0%)、「図書」(5.7%)、「専門誌・学会誌・新聞」(2.2%)、「調査・相談」(0.8%)の5項目でした。(第11表・第12表・第17図)
- 男性の回答の中央値は、4が4項目、3が5項目でした。男性において「満足」が5割を超えた項目は、「職員の対応」(64.7%)、「施設・設備」(59.9%)の2項目です。(第11表・第17図)
- 女性の回答の中央値は、4が3項目、3が6項目でした。女性において「満足」が5割を超えた項目は、「施設・設備」(72.5%)、「職員の対応」(63.9%)の2項目です。このことは男性と同じ傾向がみられます。(第12表・第17図)